

2019年度 一般入学試験（後期日程） 法学部 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

（法律学科）

志願者数	合格者数
24	3

（地域行政学科）

志願者数	合格者数
23	3

2-1. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科は、現実の社会において発生する様々な問題について論理的かつ合理的に考えることができる法的思考能力（リーガル・マインド）を持ち、さらにその能力をもちいて、これらの問題に対して柔軟かつ適切な解決策を導き出すことができる人材の育成を目指しています。そのため、特に以下の点について、十分な適性と意欲を持った志願者を求めます。

1. 社会の動きに広く関心を持っている人物。
2. 物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物。
3. 高い志と正義感、忍耐力を有する人物。

A O型入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

2-2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

本学科では、入学に対して、高校卒業程度の基礎学力を身につけていることに加えて、特に以下の点について適性と意欲を持っていることを望みます。

1. 地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち、常に問題の本質を見極めようと努力する人物。
2. 何事に関しても、しっかりとした自分自身の考え方を育てるように学習し、同時に、他者との意見交換を通して、議論を建設的に発展させ、異なる考え方からも学ぼうと努力する人物。
3. 将来、自ら選んだ職業を通して地域に貢献することを希望し、それへ向けての努力を厭わない人物。

地域行政学科は、行政・民間部門において政策を企画・立案し、実務に対応できる人材、より深い見識と広い視野を身につけ、地域社会の発展に貢献できるような人材の育成を目指します。

特にA O型入学試験において、私たちは高い志を有し、地域や社会の動きに目を向け、行動力を有する情熱ある志願者を求めます。

これまでの勉強や部活動で得たもの、あるいはこれからの夢を、自分の言葉で表現できる能力を高く評価します。

3. 出題の意図

法学部の一般入試（後期日程）の小論文は、法律学科と地域行政学科の共通問題である。両学科の求める人物像はそれぞれのアドミッション・ポリシーに記載されている。多少の表現の違いはあるものの、「社会の出来事に深い関心を持っていること」という点で共通している。

今回、社会問題に対する受験生の日ごろの関心の程度をみることを意図して1990年以降の衆議院議員選挙における投票率に関する問題を出題した。

これは受験生の資料を読みこなす能力を試すという目的もある。表を時系列で、または横断的（年代別）に読むことによって、そこからどのような特徴を見出すことができるのか。またそれを踏まえて、どのような事が言えるのか、高校生なりに自説を展開していただきたい。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価のポイント

①表を読むことができるか。（特徴を捉えることができるか。）

時系列に見ることで、全般的に投票率が低下傾向にあること。

横断面（年代別）に見ることで、「70歳代以上」を除き、高齢者ほど投票率が高くなること。

第48回衆院選より開始された20歳未満の有権者（受験生と同世代）の投票率が約40%となっていること。（これを高いとみるか、低いと見るかは、受験生の判断にゆだねる。）

②上記に①の特徴を踏まえて、自説を展開できるか。

①の分析の結果、どのようなことが言えるのか。切り口としては、シルバー民主主義（年金制度や介護保険、租税を通じた再分配政策）、若年者の政治的無関心、投票制度の在り方についてなど。